

第163回エイズ動向委員会（R6年第1・2四半期）委員長コメント

【概要】

1. 今回の報告期間は、以下の2四半期
 - 令和6年第1四半期…令和6年1月1日～令和6年3月31日
(以下 (R6Q1)、前年同時期を (R5Q1) とする)
 - 令和6年第2四半期…令和6年4月1日～令和6年6月30日
(以下 (R6Q2)、前年同時期を (R5Q2) とする)
2. 新規HIV感染者報告数は (R6Q1) 158件 (R6Q2) 166件
(R5Q1) 157件 (R5Q2) 174件
3. 新規AIDS患者報告数は (R6Q1) 82件 (R6Q2) 92件
(R5Q1) 85件 (R5Q2) 81件
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は
(R6Q1) 240件 (R6Q2) 258件
(R5Q1) 242件 (R5Q2) 255件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが (R6Q1) 94件 (R6Q2) 94件
(新規HIV感染者報告数の (R6Q1) 約59% (R6Q2) 約57%)
 - 異性間性的接触によるものが (R6Q1) 33件 (R6Q2) 31件
(新規HIV感染者報告数の (R6Q1) 約21% (R6Q2) 約19%)
そのうち (R6Q1) 男性25件：女性8件
(R6Q2) 男性27件：女性4件
 - 静注薬物によるものは (R6Q1)、(R6Q2) とともに0件
 - 母子感染によるものは (R6Q1)、(R6Q2) とともに0件
 - 年齢別では、20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが (R6Q1) 43件 (R6Q2) 53件
(新規AIDS患者報告数の (R6Q1) 約52% (R6Q2) 約58%)
 - 異性間性的接触によるものが (R6Q1) 13件 (R6Q2) 9件
(新規AIDS患者報告数の (R6Q1) 約16% (R6Q2) 約10%)
そのうち (R6Q1) は男性13件：女性0件
(R6Q2) は男性9件：女性0件

- 静注薬物によるものは (R6Q1) 0 件 (R6Q2) 1 件
- 母子感染によるものは (R6Q1)、(R6Q2)ともに0 件
- 年齢別では、30～50 歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和6年1月～6月）】

1. 保健所等における H I V抗体検査件数は
(R6Q1) 24,127 件 (R6Q2) 27,569 件
(前年同時期 (R5Q1) 22,833 件 (R5Q2) 27,006 件)

<上記内訳>

保健所における H I V抗体検査件数は (R6Q1) 16,599 件 (R6Q2) 18,414 件

自治体実施の保健所以外（委託実施）の検査件数は
(R6Q1) 7,528 件 (R6Q2) 9,155 件

2. 保健所等における 相談件数は (R6Q1) 19,274 件 (R6Q2) 21,327 件
(前年同時期 (R5Q1) 20,229 件 (R5Q2) 21,841 件)

【献血の概況（速報値：令和6年1月～6月）】

1. 献血件数は、2,500,905 件
2. そのうち H I V抗体・核酸増幅検査陽性件数は 18 件
10 万件当たりの陽性件数は、0.720 件

【まとめ】

1. 新規H I V感染者報告数は、前年同時期に比べ、第1四半期（+約1%）はおおむね横ばい、第2四半期（-約5%）はわずかに減少している。新規A I D S患者報告数は、前年同時期に比べ、第1四半期（-約4%）はおおむね横ばい、第2四半期（+約14%）は増加している。
2. 新規H I V感染者報告数は20～40歳代、新規A I D S患者は30～50歳代の報告数が多く、これまでの傾向と同様である。新規H I V感染者について、幅広い年齢層の報告がある。また、報告地については、都市部以外の地域において増加傾向にある。
3. 保健所等における H I V抗体検査件数は、前年同時期に比べ、第1四半期（+約6%）はわずかに増加、第2四半期（+約2%）はおおむね横ばいである。
保健所等における 相談件数は、前年同時期に比べ、第1四半期（-約5%）はわずかに減少、第2四半期（-約2%）はおおむね横ばいである。
4. 新型コロナウイルス感染症流行の影響により減少したと考えられる令和2、3年の保健所等での検査件数は、令和4年から増加に転じたが、令和6年に入って伸びが鈍化している。新型コロナウイルス感染症の流行以前の水準にはまだ達していないこともあり、検査件数の更なる増加が必要だと考えられる。

5. 新規H I V感染者報告数について、大きな増減は見られないが、保健所等での検査件数の伸びが鈍化していることが影響している可能性がある点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。
6. 新規A I D S患者報告数の増加は、新型コロナウイルス感染症の流行以降、保健所等での検査件数が減少していたことが影響している可能性が否定できない点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。
7. 早期発見は、個人においては早期治療の開始、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、首都圏を始め都市部、また都市部以外の地域においても、H I V感染リスクのある方は、今後も保健所等における無料・匿名の検査・相談を積極的に利用していただきたい。

第163回エイズ動向委員会 委員長コメント
《令和5年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和5年1月1日～12月31日の1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、669件（過去20年間で、19番目に多い報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、291件（過去20年間で、19番目に多い報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は960件
（過去20年間で、19番目に多い報告数）

【感染経路・年齢等の動向】

1. **新規HIV感染者：**
 - 同性間性的接触によるものが476件（全HIV感染者報告数の約71%）
 - 異性間性的接触によるものが90件（全HIV感染者報告数の約13%）
 - 静注薬物によるものは2件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、20～40歳代が多い。
2. **新規AIDS患者：**
 - 同性間性的接触によるものが157件（全AIDS患者報告数の約54%）
 - 異性間性的接触によるものが44件（全AIDS患者報告数の約15%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数は106,137件
（過去20年間で、15番目に多い件数）
2. 保健所等における相談件数は86,088件
（過去20年間で、17番目に多い件数）

《まとめ》

1. 令和5年の新規HIV感染者報告数については、令和4年より増加しており6年連続での減少から、増加に転じた。要因としては、新型コロナウイルス感染症の流行以降減少していた保健所等での検査件数が回復したことが影響している可能性がある点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。
2. 令和5年の新規AIDS患者報告数の増加は、新型コロナウイルス感染症の流行以降、保健所等での検査件数が減少していたことが影響している可能性が否定できない点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。
3. 新規HIV感染者の感染経路は、性的接触によるものが約85%（うち約84%が同性間）、新規AIDS患者では約69%（うち約78%が同性間）となっている。また、新規HIV感染者・新規AIDS患者ともに、男性が全体の9割を超えている。

4. 献血時のH I V抗体・核酸増幅検査における 10 万件当たりの陽性件数は令和 4 年と比べて減少した。しかし、依然として陽性件数があることを踏まえると、H I V感染リスクがある方は、保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。
5. 新規報告数全体に占めるA I D S患者報告数の割合は、依然として約 3 割のまま推移している。A I D S発症防止のためには、H I V感染後の早期発見が重要である。H I V感染リスクがある方は、早期発見のため、積極的に保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。また、保健所及び自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮したH I V検査相談体制を推進していただきたい。
6. H I V感染症は予防可能な感染症であり、適切な予防策をとることが重要である。また、A I D S発症予防のためには、早期発見と早期治療が重要である。感染予防と早期発見は、社会における感染の拡大防止にもつながることから、首都圏を始め都市部、また都市部以外の地域においても、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の検査・相談や医療機関による検査を積極的にご利用いただきたい。